

2012年01月15日号	J A C O O 会 N E W S L E T T E R	発行：日本山岳会〇〇会 発行人：佐藤 允信 編集者：本間 正士
--------------	--	---------------------------------------

新年にあたりご挨拶 〇〇会会長 佐藤允信

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は3.11東日本大震災発生、大津波、原発大事故またその後の台風12号などの大厄災に見舞われました。多くの日本人に価値観の転換を迫ったことも事実でした。將に先が読めない諸行無常の世界を感じざるを得ないのが現実です。

復興には何年かかるか判りませんが、日本人の底力が試されることになるでしょう。日本人の心のよりどころは国土の7割以上を占める大自然です。世界に誇れる日本の山岳と森林、その中で登山できる我々は本当に恵まれていると認識することが大切です。

昨年の〇〇会の山行については、震災や天候により3回程中止になりましたが、湯坂路、夜桜山行、尾瀬テント山行、日光男体山・女峰山避難小屋山行、立山と安達太良山小屋泊山行など、例年と一味違ったユニークな山行を行いました。今年は矢倉岳新年山行、守門岳雪庇鑑賞ツアーまで決まっております。2月～3月例会において4月からの山行計画を決めたいと思いますので、それぞれ面白い山行案を持ち寄って頂きたくお願ひいたします。

今年は特に有意義な年になりますように、ご協力お願ひいたします。

2012年 新年山行

1月25日(水) 矢倉岳

参加者：綾部、石井、酒井、佐藤、副島、山城、綿貫(記)7名

足柄平野から箱根外輪山の長い裾野の先にお椀を伏せたような山が見える。それが矢倉岳(870m)である。首都圏の登山者が新年山行や忘年山行で気軽に楽しめる山として人気がある。(他に神奈川県西部には、高松山801m、大野山723m)

2012年1月25日(水)、小田急新松田駅前9:25発のバスに〇〇会会員7名が乗車。街中を寄り道しながら40分余りで登山口に選んだ矢倉沢(バス停は本村)で下車。ストレッチで身体をほぐし、10:30出発した。人家が途切れるとミカン畑と茶畑が現れ、曲がりくねった急な農道を歩かされる。最初からきつい登りだ。登るにつれて大山、丹沢方面の山々が新雪に輝き、3000m級の大山脈の迫力だ。農道が尽き、山道らしくなる。杉やヒノキ林の細い山道となり、ほどなく金網のフェンスに囲まれた所に出る。登山者の方が檻の中を歩かされる。見

通しの効かないジクザクの急坂を我慢してひたすら登る。斑だった雪模様が純白一色の世界となり山頂が近

い事を知らせてくれる。雪道は良く踏まれており歩きやすかった。

山頂は広いススキの草原。待望の富士山は残念ながら頂きを雲の中に隠し裾野しか見えなかった。12時を過ぎた時間で全容を展望するのは難しい。しかし、箱根連山、湘南海岸、房総半島まで俯瞰することが出来た。

新年会の予定があるので、山頂滞在40分で万葉公園方面へ下山コースをとる。下りだしは急坂、慎重にゆっくり下りる。今日、豊橋から駆け付けた石井さんは、今回の山行で引退すると言いながら、登りといい、この勾配のきつい雪道を元気に歩いていた。15分程で急坂は落ち着き、酒水の滝と万葉公園方面の分岐点の清水越に到着した。これからはアップダウンは少なくなりコースも迷う事はない。ひと息入れる。(石井さんの引退宣言は延期という声あ



矢倉岳山頂にて

2012.01.25

り) 少ないバス便の都合もあり、直ちに地藏堂へのコースをとる。杉とヒノキの樹林の中をひたすら下る。送電線の下をくぐり小さな沢を渡渉し、若干の登りもあったが、これは越えた。茶畑が現れると地藏堂のバス停は近い。15時ちょうど到着。乗車予定のバスに

は充分間に合った。

新松田駅前の食堂でささやかな新年会を行い18時過ぎに散会した。本年もよろしくお祈りします。

参考：登り2時間 下り1時間50分

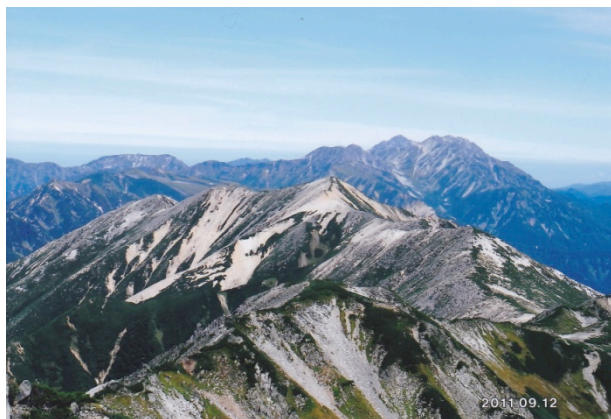
単独登山

雲の平と読売新道を歩く 佐藤允信

9月11日(日)：富山6:10発、折立8:10着、11:56太郎平着、14:10薬師沢小屋着、沢状の樹林帯を急登して新装なった雲の平小屋に17:30着、フロントでテント場の手続きをして17:50テント場着、水は豊富に出ていた。食事を済ませ満月と満点の星空の下就寝。

9月12日(月)：6:10出発、祖父岳、水晶小屋と歩き10:25水晶岳着、13:50赤牛岳着、東沢出合いから読売新道を下降。道は悪い。18時ごろ暗くなりヘッドランプを使用。18:15奥黒部ヒュッテ着、12時間歩行で疲れたので小屋泊まりとした。

9月13日(火)：7:00出発、9:10船着き場、10:20の船便に乗る。平ノ渡場からもハシゴ棧橋が続き、ロジックろよん14:45着、黒部ダムには15:25着いた。3日間とも快晴で大満足な山行となった。



水晶岳から赤牛岳と奥に立山

東日本大震災 災害支援ボランティア 副島一義

12月19日(日) 夜行バスで遠野に行き「遠野まごころネット」の仲介で1週間のボランティア活動に行ってきました。

12月20日(月)

早朝遠野到着、タクシーと雪道を歩いて「遠野まごころネット」のプレハブに着く。後回しになって釜石市箱崎町に残された高台の川崎氏宅が今日の作業現場です。高台に建っていますが、津波が廻ってきて二階の天井まで到達しましたが尺柱のお陰で破壊されなくて残ったのです。上の家との境界の庭の法面は大きな木片、屋根瓦の破片、漁具、等を取り除くと一見方付いた様に見えますが、表面の土を5cm~10cm取り除くと美しい砂が現れ、この中に小さなガラス片、プラスチック、鉄板、木屑、屋根瓦の破片、等が沢山出てきます。分類し集めて廃棄します。

12月21日(火)

6時に起床、寒い。今日も釜石市箱崎町の川崎邸の瓦礫処理を行う。関東学院六浦高校の男女の学生さんも一緒のバスで参加、道路側溝の汚泥処理を元気に頑張っていました。

川崎氏は10時頃漁から帰ってきて、我々に挨拶をして、仮設住宅へ戻り、30分位過ぎてから器に「採れたての鮑」を入れて現れ、「一休みしたら」と声を掛

けてきて鮑を一切れづつご馳走して下さいました。

「美味しかった！」

「今頃、上がってきた」と浜の方を指差しながら、話始めました。「俺はサラリーマンの1ヶ月分くらいを、皆より30分も速く水揚げしている」と、自慢げにですが、寂しそうに話した。地震前だったら、漁協員が全員で海に入れたが、今は船が流されたので交代で海に入り、全員で平等に分け合あい、日給しか稼げないとの事。

今日も昼食は、我々ボランティアに、仮設住宅のご夫妻から暖かいお握りと汁物に漬物の差し入れがあった。30人分も作るのが大変だろうと思うが、婦人は楽しそうに我々へ配膳して下さいました。

午後も同じ作業を14時30分まで行い、プレハブ小屋に戻る。

12月22日(水)

朝礼の時、作業員募集で「サンタ隊」のリーダーから泣きが入りました。「サンタ隊」とは、世界中からの募金で被災地の地元の御菓子屋さんからお菓子類を購入して、袋に詰め、仮設住宅を廻って、お菓子袋のプレゼントを手渡しするボランティアで、11月までのイ

インターネットで募集した処、500人位が応募してきました。再度「今は雪が降っていますので寒いです、仮設住宅を廻るのは、気軽にできません、等」を流した処、土壇場でのキャンセルが相次ぎ、150人位へ激減してしまいました。「お菓子の袋詰めも間に合いませんので、瓦礫処理隊の方々から、此方に応援して下さい。」と云われ、10人位が瓦礫処理隊から廻ってきました。

小雨ですので、屋外での作業は出来ず、釜石市箱崎町の内部が破損された東部漁協センターに行き、2階の瓦礫の撤去をしました。窓ドアは勿論、天井から家具類全てが無い代わりに、砂、漁具、家屋の木材、から玄関部分の壁面が3m四方で横たわり、こんな物が？と思える品々が積み重なっていました。

12月23日（金）

朝礼でサンタ隊のリーダーからは「クリスマスの期間はこの3日だけですので、応援をお願いします。」、作業班のリーダー達からも「サンタ隊へ行ってください。」と大きな声で募集がありました。昨日から決めていましたので平服ですが、大船渡市のサンタ隊へ参加しました。

12月24日（土）

今日は、陸前高田市のサンタ隊へ応募しました。

12月25日（日）

今日は釜石市箱崎町での瓦礫処理に参加しました。岡山県から来ているボランティア4名は、三菱自動車玉島工場の人達で、スリランカ人は日本語ペラペラで、

志津小屋泊で男体山へ 7月21日～22日 綿貫誠一

志津乗越は標高1,785mあり、樹林の中を男体山方面に5分ほど歩くとログハウス風の立派な志津避難小屋がある。二荒神社が所有するもので社務所も兼ねている無人小屋である。20名は泊まれる清潔な小屋で我々5名が貸し切り状態でゆったり休めた。

7月22日、5時起床。梅雨明けの太陽が輝き暑い一日が始まる予感がする。佐藤、本間、吉田さん達は、大真名子から女峰山への長い稜線歩きが始まっている。副島さんと綿貫は男体山に登り、中禅寺湖から今日中に東京に帰る予定だ。7時過ぎに出発。笹とブナなどの樹林の緩やかな道をゆっくり進む。土砂崩れを防ぐ堰堤をいくつか見送ると傾斜が増してくる。突然樹林帯が切れ左に大崩れが眼前に飛び込んできた。男体山以外の山々にも荒廃が進んでいるようだ。下の方からの子供たちの声に元気ももらいながら歩く。8合目付近から高山的な雰囲気になりシャクナゲの薄いピンクがちらほら。傾斜が緩くなると頂上は近い。10:30

セイロン紅茶の講義を受け、ついコンビニで紅茶のペットボトルを購入しました。

午前中は、漁師小屋付近の瓦礫の処理ですが、地面は一面固まっていて瓦礫は見当たりません。流されてきた砂が海水の塩分で固まっていますので、ツルハシで砕き、厚さ10cmくらいの塊を取り去ると、下に美しい砂があり、川崎氏の庭と同じ瓦礫が沢山混じっていました。分別して集め、元の土が見える様に均しました。

昼食の後、サンタ隊と一緒に仮設住宅の広場で餅を搗き、仮設住宅のお母さん方が丸めて、餡を付け、又、秋田のボランティアから頂きました比内鶏のだご汁を大鍋で作り、発泡スチロールのお椀に分け、被災されなかった住民の方々（被災されていないので、無償で何も貰えないの方々。）を呼んで一緒に食べました。まごころネットが両方の住民の間に入って、クリスマスのイベントを通して仲直りの交流を企画したのです。午後の作業は取止めて、早々と上がりになりました。

遠野駅前21時59分発の国際興業の夜行バスに乗り、26日（月）秋葉原駅前に予定より遅れ6時25分着。



一等三角点にタッチ。二荒山奥宮に参拝し、山座同定。大真名子山から女峰山

への長い稜線が遠望される。三人組は今頃どのあたりか、3ℓの水を背負って頑張っていることだろう。

8月1日から1週間は登拝祭が行われ、山は大変賑わうと言う。今日はちらほら登拝口から栃木県警のお兄さんたちが登ってきて記念撮影のシャッターに協力する。

11:15下山。いきなり滑りそうな小石まじりのジグザグ道、汗をかきながら慎重に下る。登山道は直射日光が照りつけて下りでも苦しい。登ってくる登山者は皆うんざりした顔で頂上までの時間を訪ねるが、まだ

まだ。樹林帯に入った所が6合目、少し勾配が緩くなって4合目。13:30治山工事の車道を歩かされて、階段状の路を緩やかに下って行くとやっと1合目の標

識が見えた。二荒神社本殿の脇を抜けて14:20中禅寺湖でフィニッシュ。男体山は登拝口から夜間か早朝の涼しいうちに登るべき山であると思った。

2012年 守門岳雪庇鑑賞ツアーのご案内

昨年は東日本大震災の為に、守門岳雪庇鑑賞ツアーが中止となり残念でした。今年は大雪で是非素晴らしい景色になると思います。山荘に泊まり、夜は豚汁や栃尾のあぶらげ、フキノトウのてんぷらなど地元の人たちの温かいもてなしで地酒を楽しみたいと思います。

記

期 日：2012年3月24日（土）～25日（日）～26日（月）

集 合：11時 JR長岡駅、又は12時 とちおファミリースキー場

（上越新幹線：東京駅8時52分発 MAXとき311号 長岡10時50分着）送迎バスで栃尾まで移動

行 程：＜1日目＞11:00JR長岡駅→(途中コンビニに寄ります) 12:00スキー場(バス移動) →13:00来
山口より登山開始 →15:30道院荘着(雪原散策と懇親会準備)(宿泊)

＜2日目＞ 5:00朝食・6:00出発(万太郎山経由) →9:00保久礼 →11:30大岳 →12:00中
津又岳 →13:00保久礼小屋(昼食)→13:45保久礼小屋出発 →15:30二分口(バス移動) →16:
00スキー場着(解散)(バスで長岡駅まで送ります)

費 用：8,000円(送迎バス、宿泊、食事/宴会費用含む)

コース：①スキー(貸しスキー希望者は事前連絡のこと)

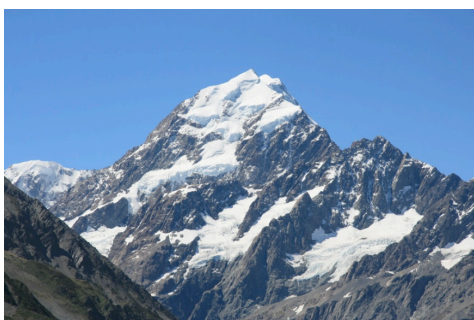
②徒歩(かんじきは希望者にお貸しします)

持参物：防寒具、雨具、帽子、手袋、スパッツ、サングラス(ゴーグル)、中間食、非常食、水筒(魔法瓶)他
2日目の昼食はおにぎりを朝に作ります。

世話役：本間 正士(携帯 090-4390-1032) Eメール：s.homma@jcom.home.ne.jpに連絡ください。

編集後記

- ・ 1月の発行が遅れてしまいました。原稿が集まらなかったことと小生の予定で時間が取れなかったことに起因します。つつしんでお詫びいたします。
- ・ 副島さんのボランティア報告は各日の主要項目に絞って編集させて頂きました。寒い中の活動に敬意を表します。でも地元の人たちとの採れたての鮑やお屋のおにぎりなどの交流が見えて暖かい気持ちにしてくれます。一日も早い復興を願っています。
- ・ 編者は1月21日から1週間ニュージーランドを旅してきました。夏ですが意外と寒いにはびっくりでした。初日雨でしたが、その後は晴天が続き、ミルフォードサウンドクルーズ、マウントクック散策などこの国の豊かな自然を満喫してきました。マウントクック三景を新年のあいさつに代えて送ります。
- ・ 例会は2月21日、3月13日、4月17日にJAC会議室で午後6時30分より行います。ご参加ください。
- ・ 本年も健康で山と自然を楽しみましょう。皆様の原稿をお待ちしています。



氷河におおわれたマウントクック



夕焼けのマウントクック(ホテルより)



プカキ湖からマウントクックを望む

